

歴代 RI 会長のプロフィール 1

1910-12年 ポール・パーシー・ハリス

オハイオ州シカゴ

ロータリーの創設者ポール・ハリスは、1868年4月19日にアメリカ合衆国ウィスコンシン州ラシーヌに生まれました。彼の両親は、ジョージ・ハリスとコルネリア・ブライアン・ハリスでした。商売人であったジョージはバーモント州ウォリングフォードのハワード・ハリスの息子であり、コルネリアはラシーヌの2代目市長ヘンリー・ブライアンの娘でした。ハリス夫妻は彼らの最初の息子をセシル、2番目の息子をポール・パーシーと命名しました。

ジョージとコルネリアは金銭感覚に乏しく、事あるごとに祖父のジョージに資金援助を求めましたが、結局、浪費癖のために破産し、ジョージは、バーモントの祖父の下に預けられ、コルネリアは末の娘と共にラシーヌに残ってピアノ教師で生計を立てる道を選びました。

5歳半のセシルと3歳のポールは、バーモントのグリーン・マウンテンの谷間という新しい環境の下で育ちました。彼らは厳しいけれど優しい祖父母の下で、山道を走り回ったり、家畜の世話をしながら、祖母の手作りの料理を味わいました。セシルはまもなくその後3人の兄弟が増えていた両親の下に帰りましたが、ポールはそのままそこに残りました。

祖父ハワードは、かつて弁護士になることを夢見ていましたが、そ

の夢をポールに託しました。後日彼が書いているように、彼の本性である目的意識や清廉潔白さや誠実さは、いずれも彼の祖父から引き継がれたものです。さらに人類愛、特に子供に対する愛情は祖母パミラからもたらされたものです。ポールは野性味あふれる子供でした。散歩やハイキングやスケートやマス釣りや、急な山腹でスキーをするのが好きでした。彼はいたずら好きで、深夜に寝室の窓から抜け出して、いたずら仲間に加わっていました。

高校卒業後に、ラドローにあるブラックリバー・アカデミーに入学しましたが、いたずらが原因で退学処分となりました。その後、士官学校であるバーモント・アカデミーに入学し、1885年にバーリントンにあるバーモント大学に入りますが、再度素行不良のため退学処分になりました。後日、大学側はポールと3人の仲間に対する措置が誤りであったことを認めて謝罪し、卒業資格を与えました。

彼は家庭教師をつけてもらって勉学にいそしみ、プリンストン大学に入学しましたが、在学中に祖父が死んだので、プリンストン大学を辞めざるを得ませんでした。

その後ポールは、日給1ドルで、雑用係として大理石会社で真面目に働きながら、アイオワ州立大学に通い法律を学ぶことになりました。その途中、1週間ほどシカゴに立ち寄る機会がありました。喧騒に満ちたシカゴは彼の心を奪い、彼は将来この町に戻ってくると誓いました。学生生活を無難にこなし、法律に関する素晴らしい知識と、読書に対する関心と、特に人間としての素晴らしい経歴をつけて、彼は1891年に卒業しました。

彼の卒業直後、祖母が死にました。彼女が永遠の眠りに就いたとき、悲しみにくれたポールは、彼女が小さな谷間の村で 78 年間の人生を全うしたことを改めて思い起こしました。彼女はそのことに満足していましたが、ポールは、考えつくあらゆる角度とできるだけ多くの方向から人生を研究するために 5 年間で費やして世の中のことを経験した後、シカゴに戻って弁護士になることを決意しました。

最初の目的地はカリフォルニアでしたが、途中、イエローストーン公園や北アイダホやその他の魅力的な場所を訪れて、1891 年 7 月にサンフランシスコに到着したときには、彼のポケットは空になっていました。彼はクロニクル社で特派員の仕事を見つけて、仲間の特派員と共に大陸を横断することを決心しました。途中、カウボーイをしたり、山岳地帯やヨセミテ渓谷を 300 マイルも歩いたり、ブドウ摘みやビジネス学校の教師をしたり、証券会社で働いたりしながら旅を続けました。

仲間と別れたポールはフロリダを訪れ、ジャクソンビルのホテルで夜間事務員の仕事を見つけました。次に、大理石や花崗岩のディーラーであるジョージ・クラークの下で、外交販売員として働きました。クラークは約 20 年後にジャクソンビル・ロータリークラブのチャーター会長を務めました。

ポールはグローバー・クリーブランド大統領の就任式に出るためにワシントンに行き、その後、南部地域で大理石を販売しました。そこから、フィラデルフィアにでて、家畜運搬船に乗って厳しい 14 日間の船旅の末、リバプール着きましたが、その船はすぐ帰路に就いたため、ロンドンを訪れるという夢をかなえることはできませんでした。

しかし、すぐに新しい機会が訪れて、素晴らしい船旅で直接ロンドンに行くことができました。

フィラデルフィアに戻った後、シカゴの世界博覧会を見に行き、そこからニューオリンズへ行って果物の摘み取りや、入り江でカキの収穫をしました。再びジャクソンビルのジョージ・クラークの大理石会社へもどり、1年間、南部各州やキューバやバハマを回りました。さらにジョージは、彼をイギリスやヨーロッパ大陸の花崗岩や大理石生産地に派遣しました。いたる所で、彼は友人を作りました。アメリカに戻ったポールは、シカゴにおける生活を計画しました。割り当てられた5年間の3分の2は終わりましたが、彼はお金が必要でした。再度ジョージ・クラークに頼んで、ニューヨーク事務所に務めました。

1896年2月27日、5年間のタイムリミットを迎える4カ月前に、ポールはシカゴに着きました。彼は事務所用の小さな部屋と備品を借りて、自身のスペースを確保しました。世紀のかわり目のシカゴは混乱の街であり、社会的、経済的な不安定さは弁護士にとって絶好の機会でした。ポールの好意的な性格は、社会のあらゆる階層の人たちの信頼を得ました。しかし、この田舎育ちの少年は、日曜日や休日には喧騒に満ちた街から抜け出して、郊外を探索しながら、故郷の友人のことに思いをはせました。

1900年のある夏の夜、彼はロジャース公園の近くに住んでいる友人の弁護士と一緒に食事をしました。食事の後、近所をぶらつきながら友人の顧客の事業所を訪ねました。その都度、その友人は事業主を紹介してくれました。ポールは、そのような社会的に繋がりのある実業家の友人のグループを作ることが名案であると思いつきました。そ

れぞれが異なった事業や職業を代表していれば、特別な利点があるに
違いありません。彼は石炭商シルヴェスター・シール、鉱山技師ガスタ
ーバス・ロア、印刷屋ハリー・ラグルズと、彼自身の顧客のことを思
い浮かべました。

1905年2月23日の夜、ポールとシルヴェスターとガスは、仕立て
屋のハイラム・ショーリーと共に、ユニティ・ビルのガスの事務所で
最初の会合を開きました。その会合は、他の知人を誘い入れて、定期
的に開かれました。ポールは、いくつかの名前を提案しましたが、彼
らはロータリーという名前を選びました。事業の成功を夢見ながら、
農村や小さな村からでてきた人たちの関心を集めて、会員数は急速に
増えました。

ロータリーの発展は無計画であり、偶然でさえあったと一般的に思
われてきましたが、ポール・ハリスは、彼の著作の中で、それを真っ
向から否定しています。彼はザ・ロータリアンの中に、「その計画は、
苦労の上解決して、本気になって実行した。」と書いています。

国際化という概念すら、当初からの考え方でした。ポールは、まも
なく、様々な会員が友情という共通の絆を共有しながらクラブが成長
する原動力は、宗教や政治を超越して、奉仕を奨励する豊かな土壌に
あることを悟りました。彼は友情こそが、好意と善行につながると確
信していたのです。

ポール・ハリスはロータリーのために、すべてのエネルギーを費や
していたわけではありません。彼は活動的な弁護士であると共にシカ
ゴ商工会議所、シカゴ市民クラブ、シカゴ弁護士会、ヒンズデール・

ゴルフクラブの会員でした。そして、ハイキング・グループのプレーリー・クラブの創立会員でもありました。ここで、彼は3年前にスコットランドから来たばかりのジーン・トムソンという若い女性に巡り合いました。それから3カ月後に、彼女はポールの花嫁になり、彼らが会った丘の頂上に家を買いました。ジーンはスコットランドの彼女の家の通りにちなんで、そこをカムリーバンクと名づけました。

ポールは1907年に、アルバート・ホワイトの後任として、シカゴ・ロータリークラブの会長となり、引き続き、2期目の一部を勤めました。1910年に、14のロータリークラブの代表者は、チェスレー・ペリーの要請を受けて、シカゴの国際大会に出席しました。全米ロータリークラブ連合会は慎重に検討された定款と細則を採択し、ポール・ハリスを会長に、チェス・ペリーを幹事に選びました。

チェスが、すべてのロータリークラブと当時の1,800名になっていた会員に送るメッセージを求めたところ、ポールは、チェスがタイプで打てないくらいの長い随筆をしたためて、それに応じました。その成果は1911年1月に発行された、ナショナル・ロータリアン第1巻第1号に掲載されています。

チェス・ペリーは、新しい連合会の組織と管理に専念し、ポールは主に広報の分野で活躍しました。彼と9人シカゴ・クラブの仲間たちは、ミネアポリスに50人の会員のクラブを設立しました。彼はシンシナティ、クリーブランド、デトロイト、ピッツバーグ、インディアナポリスや、ロータリーが拡大された外国の新しいクラブを訪れました。ロータリーの創設者および名誉会長として、拡大と影響を与えるために旅行したあらゆる場所で、力強い刺激を与えました。

ポールとジーンはカムリーバンクで多くのロータリアンを楽しませました。ここを訪れた客の名誉を讃えて庭には樹が植えられました。ポールは彼の友人のリストの中にはすべての国の人たちを含ませたいと述べています。「友情あふれる快適さの交換」。彼は理解と好意を促進するための最高のものを考えていたのです。

ポール・ハリスは 1947 年 1 月 27 日に逝去しました。ロータリーは今日、約 2 万 8000 のクラブ、120 万の会員が結束して、彼の記念碑と彼の遺産を引き継いでいます。

1912-13 年 グレン C. ミード

ペンシルバニア州フィラデルフィア

ロータリーの事務総長チェスリー・ペリーは「グレンはポール・ハリスの後任として最適な人物であり、その時々にはふさわしいニーズに適った現実的な考え方を組織に導入しました。」と語っています。グレン C. ミードは全米ロータリークラブ連合会の 2 代目の会長として、早くから囑望されていました。

彼は両親が荒野から切り開いたペンシルバニア州エリー郡の田舎の農場で生まれ、農村の生活にお決まりの厳しさに鍛えながら成長しました。南北戦争による負傷が原因となって父を失い、家族の貧困にもかかわらず、グレンは 17 歳でニューハンプシャー州のフィリップス・エクセター・アカデミーを経て、4 年後にはハーバード大学を優秀な成績で卒業しました。彼はフィラデルフィア州のエピスコパル・

アカデミーで古典を教えながら法律を勉強し、最終的に 1900 年に、フィラデルフィアの弁護士資格を取りました。

若くして政治的手腕を発揮して、都市の道路や住宅を整備して、商業の中心地や鉄道網を開発し、有名な鉄道出版社の顧問弁護士として高い評価を受けました。グレン・ミードはすべてのことを完全にやり遂げる人でした。

1910 年に、フィラデルフィア・ロータリークラブの創立に際して、初代会長を務め、1911 年のポートランド国際大会で、全米ロータリークラブ連合会の理事に選ばれ、1 年後には新しく名前を変えた国際ロータリークラブ連合会の会長に選ばれました。

グレンは連合会とロータリアン誌の財務に関して、チェス・ペリーと緊密に連絡をとりながら働きました。また、竜巻と洪水がアメリカ中西部を襲ったとき、災害救助を求める最初のロータリー募金運動を組織化しました。しかし、彼が成し遂げた最も素晴らしい業績は、1915-16 年に会長になったアレン D. アルバートが述べたように「点在しているクラブを友情によってまとめ上げた」ことです。グレン・ミードは 1954 年 5 月 24 日に逝去しました。

1913-14 年 ラッセル E. グレーナー

ミズーリ州カンザスシティー

ロータリーの 3 代目の会長ラッセル・グレーナーは南北戦争終戦直後にオハイオ州キセニアで生まれました。彼はキセニア小学校を卒業

後、キセニア大学に通い、青年時代はキセニア・ガゼットの特派員を務めました。

1889年に、アメリカン紙の編集者ホラティウス・グリーリーの意見に従って、アルフレッド・コーンウェルという名前の友人と共に、カンザスシティの西を旅行しました。「フレッド」と「ラス」の名前は、彼らの生涯を通じた友人としてまたビジネス・パートナーとして、その町に残っています。

カンザスシティタイムズの編集部、靴の会社のセールスマンを務めた後、ラッセルはユニオン・バンクノート社の営業部に入りました。数年後に、彼は副会長になって、高品質なリトグラフに対する国際的な名声を達成するために、彼の生涯を会社に捧げました。

ラッセル・グレーナーは、社会的にも市民としてもリーダーであり、1910年にカンザスシティ・ロータリークラブを設立するために尽力し、その翌年にはクラブ会長を務めました。1911年に国際ロータリークラブ連合会の副会長に選出され、1913年には会長に就任しました。

彼は会長の期間中、現存するほとんどすべてのロータリークラブを訪問するために各地を旅しました。自らの義務を果たすように、クラブや役員を奨励して、精力的に意思疎通を図りました。ラッセルはシカゴにおけるロータリー本部の再構築を図り、公式雑誌を発展させるために尽力しました。

国際ロータリーの会長を務めることが、「自らの人生における最もす

ばらしい出来事」であったにもかかわらず、彼は後継者が 1914 年にテキサス州ヒューストンで開催された国際大会で直ちに引き継ぐことができるように、在職期限を 2 ヶ月早めて辞任しました。ラッセル・グレーナーは在籍中、40 回に近いほとんどすべての国際大会に出席し、1961 年 6 月 4 日、93 歳で逝去しました。

2009 年 4 月 13 日